なでしこ

都立南多摩高校(府立第四高女)同窓会　あかね会広報紙第２号

2011 年特別号
2011 年 5 月 1 日発行
発　行：都立南多摩高校同窓会･あかね会
発行者：黒須　隆一
〒192-8562 東京都八王子市明神町 4-20-1
都立南多摩高等学校内
連絡先電話：042(625)8325
http://www.akanekai.org

東日本大震災により被災された皆様に、謹んでお見舞い申し上げます

特集：スタートした南多摩中等教育学校

４月７日、桜が満開の母校で、中等･高校が合同して行われた入学式

会員の皆様とともに

南多摩高校同窓会･あかね会会長　**黒須　隆一**（昭和 35 年卒）

風薫る季節になりましたが、会員の皆様、いかがお過ごしですか。日頃から「あかね会」の活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

3月11日に発生しました東日本大震災では、地震、津波、原発事故により被害を受けられた皆様方に、心から御見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈りいたします。

母校は中高一貫校として新たに南多摩中等教育学校が開校して、早くも1年が経ちました。6年間を通して発展段階に応じた”心･知･体”の調和と充実を目指す教育が、いま各方面から期待の眼差しを注がれています。校庭で高校生に混じって元気のいい中学1年生の伸び伸びした姿を見るにつけ、将来の日本を担い、グローバルな世界で活躍する個性豊かな若者が数多く巣立つことを強く願っています。

南多摩高校同窓会「あかね会」も100周年記念事業を契機に活動が盛んになり、 新たに始まった広報紙発行、ホームページ、文化祭出展、学校支援の講演活動などを通じて、卒業生同士や学校との絆も一層強く結ばれてきています。会員の皆様におかれましては、「南多摩」が名実ともに多摩を代表する学校になりますように、更なるご支援、ご協力をお願いする次第です。

５月１５日(日)は「あかね会総会」の日ですので、ぜひお出かけください【詳細は最終頁】

特 集

スタートした南多摩中等教育学校

都立南多摩中等教育学校　副校長　大熊　一正

1　はじめに

平成22年4月に都立南多摩中等教育学校がスタートしました。22年度は第1学年160名のみの在籍ですが、これからの南多摩中等教育学校の取組を実際の生徒たちと共に作り上げていった1年間だったと思います。

同窓会の皆さまからもあたたかい眼でご支援いただきました。22年度の本校の取組をご紹介します。

2　学習活動

質の高い学習活動を行うことは、中高一貫教育校の使命でもあります。本校でこの1年間に取り組んだことを挙げると、

①少人数指導の実施（国語・数学・英語）
②土曜授業の実施（公開授業を原則として）
③シラバスや6年間を見通した授業計画の作成
④補習や補講の実施
⑤発表活動やコミュニケーション活動を重視した学習展開

などがあります。

①少人数指導の実施

22年度は4学級のみということもあり、1学級を2つに分けて実施しました。⑤にあるように、生徒一人一人の活動をより重視した授業を展開するためにも、人数を減らして授業を行うことは大変意義のあることです。23年度からは、学級数が増えるため、2学級を3つに分ける形になります。

②土曜授業の実施

22年度より、月2回まで授業を公開することを前提に土曜授業の実施が認められました。本校でも年間13回の土曜授業を実施しました。授業ではありませんが、このほかに年間6回の土曜講座を実施しましたので、生徒は概ね月2回土曜日に登校して活動を行いました。

③シラバスや6年間を見通した授業計画

シラバスは、生徒に授業を進める上でのガイダンスや注意事項を知らせて、授業に臨むためのものです。公立中高一貫教育校として独自のカリキュラムを構成するため、授業のあり方や計画を生徒、保護者にお知らせしました。

④補習・補講の実施

中等1年生は、基礎基本をしっかりと定着させることが大切です。各教科で試験前や日常の単元テストの後などに、基礎基本がまだ身についていない生徒を指導したり、分からない部分を質問する機会を作ったりしました。

⑤発表活動・コミュニケーション活動

本校の特色として、校外へ積極的に出ていき探究活動を実施しています。そのため、各教科の授業の中でもお互いの意見を出し合ったり、発表したりする活動を入れています。この1年間、生徒の基礎基本の定着と、より質の高い学習活動の展開という2つの点をバランスよく行うことを工夫しました。

3　生徒指導

中等生が在籍するようになると、小学生を卒業したばかりの生徒に対して、自立した社会人へと向かう第一歩をどのように指導するかという課題が生じます。今年度は次のように行いました。

①初期指導として、規則をしっかりと守らせる意識を育てる。
②お金の扱いを厳密にする。
③社会的に問題視されている携帯電話等の扱い。
④生徒一人一人の状況を的確につかみ、その都度指導していくきめ細やかな指導。

①初期指導

初めて制服を着用して通学してくる中等生にとって、きまりをどう考え守るのかを、4月初めに重視して指導しました。

お互いが決まりを守ることで気持ち良く学校生活が送れることを指導しながら、学年集会や朝礼活動を行いました。

②お金の扱い

学校に不必要なものを持ってこない指導の一環として、お金についても学校に持ってこない指導をしました。また、給食を実施しますので、高校生が利用する購買や自動販売機の利用も禁止としました。まだ、義務教育の段階にある生徒に対して、金銭については保護者の管理下で行うべきものであり、その点をしっかりと生徒たちにも意識させることとしました。

③携帯電話

携帯電話のトラブルは、圧倒的に14歳で起こっています。それは、社会に対する興味・関心が高まると同時に、まだトラブルに対処するだけの力がない時期だからと言われています。それを受けて、子供が携帯電話を使うことを保護者に考えてほしいという訴えが、文部科学省や東京都教育委員会から行われています。本校に通学する生徒たちの多くは交通機関を利用して登校してきますが、こういった社会の情勢を考え、携帯電話の校内持ち込みを禁止しました。この3年間の中で、情報をどのように扱うのかを学び、後期課程へとつなげていきたいと考えています。

④きめ細やかな指導

中等教育学校前期課程は、生徒にとって、最も悩みを抱える時期になります。その時に、身近な大人である先生の存在は大きいものがあります。また、スクールカウンセラーが毎週1回勤務して、生徒や保護者の悩みを相談できる体制になっています。

生徒指導は、発達段階に応じて行うことが大切と考えています。社会のルールやマナーを考えさせながら、少しずつ自分で判断し行動できるようにさせていくことが目標です。

4　進路指導

中等教育学校前期課程の進路指導は、自分のことを知ること、社会のしくみを知ることが大きな目標です。22年度は職場訪問を行い、社会にはどのような仕事があるのかを取材しました。その中から、自分が何を目指していくのかを考えさせ、将来の進路へとつなげていきます。

5　特色ある教育活動

本校の特色ある教育活動は、「フィールドワーク活動」です。これは実体験に基づいた探究活動を行い、最終的には、学術論文作成に結び付ける活動です。

22年度は1年目であり、その活動の概要をつかみながら身近な地域を調査することを目標として活動しました。

①グループ活動としての取組
②テーマ設定
③調査活動の実施
④専門家からの支援
⑤発表活動

①グループ活動

22年度の活動は、すべて5人程度の班活動で行いました。探究活動を進める上でのベースは、単なる個人の活動とするのではなく、多くの人との関わりの中で進めていくことが大切と考えているからです。そこで、日常で活動している班を1単位として、テーマ設定から調査活動、発表までを行いました。

②テーマ設定

4月30日にあらかじめ設定したコースにしたがって、八王子市内を歩きました。この中から探究できるテーマを見つけてもらおうというのがねらいでした。

③調査活動の実施

学校として設定した調査活動を9月25日、10月21日に設定し、それに向けての準備を始めました。調査活動は、必ず地元の人や専門的な知識をもっている人に取材することを入れて実施しました。アポイントメントの取り方やあいさつの仕方など、基本的なマナーも学びながら実施しました。

④専門家からの支援

この調査活動に対して、科学技術振興機構の「サイエンスパートナーシッププロジェクト」の指定を受け、近隣大学から支援をいただきました。また、発表活動においては、東京都の外部人材活用事業の指定を受け、自然教育研究センターから4名の支援員に来ていただきました。今後も多摩地域の教育機関との連携を図りながら活動していきます。

「学ぶ力」を育てる

都立南多摩高等学校・都立南多摩中等教育学校　校長　小林　幹彦

“学ぶ力”は様々な場面で育つ。知識・技能を身につけるとき、友と協力するとき、困難に立ち向かうとき等々である。 だから南多摩では様々な機会を用意する。基礎・基本を身につけ、知的好奇心を駆り立てる授業。皆が協力し、学校全体が一体となる行事。より良いものを求め、不安やつらさを乗り越えて挑戦する部活動等々である。そして何事にも一生懸命取り組むことを求める。時には厳しく、時には温かく包み込むように求める。このような環境で、生徒は学ぶ意義を知り、方略を身につけ、意欲を養う。卒業しても「困ったら学べばよい、足りなかったらもっと努力すればよい。」と何事にも前向きに対応できる。“学ぶ力”は南多摩が目指す“人間力”の中核である。同窓生の皆さんに「わが母校は、あの南多摩だ！」と胸を張ってもらえるように、理想をしっかりと見つめ努力して行きたい。

⑤発表活動

今年度のフィールドワーク活動は、3月19日に予定していた成果発表会において発表することになっていましたが、東日本大震災により中止となってしまいました。しかし、発表に使う掲示物を「マイタウンマップコンクール」に出品し、審査員奨励賞をいただくことができました。作品は、学校ホームページに載せています。ぜひご覧ください。

この活動は、生徒の学習に対する意欲を高め、より主体的に探究活動に取り組むことを目標としています。本校の生徒が生き生きと学習活動に向かう軸となる活動であると考えています。一方で、この活動は様々な支援を得ないと結実しない活動でもあります。あかね会の皆さまにも、これから様々な御支援と御協力をお願いいたします。

6　その他

22年度の取り組みは他にもたくさんあります。詳細は学校ホームページを見ていただければと思います。項目を列記させていただくと、次のようなものが挙げられます。

○自校式給食の実施（厨房、食堂の改修）
○朝読書活動、図書館の改善、読書活動の推進
○球技スペースの整備
○中等部活動の設置（11部活）
○開校記念式典の実施（11月6日）
○学生歌「無限の粒」制定
○合唱祭・文化祭・体育祭の中高合同開催
○新規中高一貫4校交流事業（部活交流、生徒会交流、百人一首大会他）

平成23年度は、2期生を迎え、様々な活動を変更したり、充実を図ったりと、南多摩はますます発展していくと思います。今後ともぜひ母校への御支援をよろしくお願いします。

学校ホームページ

http://www.minamitachuto-e.metro.tokyo.jp
「南多摩中等」で検索できます。

南多摩・学校ニュース 2010～2011

南多摩中等教育学校の開校記念式典で、新しい学生歌を披露　2010.11.6

2010年11月6日、母校体育館で中等1年生と高校１年生全員が参列し、『都立南多摩中等教育学校開校記念式典』が開催されました。来賓の方々に加えて、中1の保護者に連れられた幼い妹弟たちの顔が多く見られるのも、新鮮な中高一貫校の光景らしく見え、南高100年の輝かしき伝統を継承し、中高6年制学校としての新しい発展の一歩を刻む記念すべき式典でした。南多摩高校は2015年3月で高校としての幕を閉じますが、その後は南多摩中等教育学校に引き継がれていきます。小林校長の式辞、榎本前校長の祝辞から、6年間の一貫教育で「心・知・体の調和を求める人間力の南多摩」の将来が伺えます。校内だけでなく課外授業にも飛び出し、地域の皆様の協力を得ながら、自然、文化、歴史、産業を肌で体験するフィールドワーク学習も行われます。これにより生徒の可能性を伸ばし、豊かな教養を身につけ、国際社会で通じる次世代リーダーを育てる新しい教育が期待されます。

記念式典では室内楽や吹奏楽、百年太鼓の演奏が、会場の活気を盛り上げました。新しい話題は指揮や合唱指導で活躍している南高卒業生の音楽家・郡司　博さん(昭和38年卒)が作詞・作曲した南多摩中等教育学校学生歌『無限の粒』が、初めて披露されたことです。音楽の横井明子先生の指揮で、中・高の1年生全員で合唱する歌声が美しいメロディーと見事に融け合い、校歌と共に末長く歌い続けられていくことでしょう(写真)。 なお、学生歌『無限の粒』は、同窓会ホームページ「南多摩コミュニティ」から試聴できます。

全国高校 PTA 記念大会で、中等生・高校生が一緒に百年太鼓を初披露　2010.8.20

第60回全国高等学校PTA連合会・東京大会は、8月19～21日の3日間、日本武道館など10会場で開催されました。この記念すべき東京大会に「南高百年太鼓」が、九段会館で20日に行われた特別第1分科会のアトラクションとして初参加をしました。

この年に開校した南多摩中等教育学校から、可愛い中等1年生が15名も加入、奏者は一挙に倍の人数になり、高校の先輩たちと一緒になって演奏する最初のお披露目です(写真)。太鼓の演奏も年々上達してきており、指導する今川先生をはじめ総勢26名が、舞台いっぱいに8台の太鼓を叩く光景は、まさに圧巻そのもの。25分の演奏時間があっという間に過ぎ、日本全国から集まったPTA関係者で超満員の会場から、大きな拍手が鳴り止みませんでした。卒業生が100周年記念募金で寄贈した百年太鼓が、南多摩の新しい名物として母校のPRに有効に活用されているのは嬉しい限りです。

なお、2011年4月から、百年太鼓を演奏する太鼓グラブが、部活動・文化部の「太鼓部」に認可されました。

2010 年から文化祭の呼称が、「南高祭」から「南魂祭(なんたまさい)」に　2010.9.11-12

中学と高校が一つになって初めて開催された第102回文化祭は、2010年9月11～12日に開催され、2日間で約5，500人が母校を訪れました。

従来までずっと「南高祭」として行われてきましたが、昨年に南多摩中等教育学校が開校したことで、呼称が「南魂祭(なんたまさい)」に変更されました。

これは先代から受け継いだ「南高祭」を、新しくなった南多摩が「魂」を引き継ぎ、活気溢れる中等生が魂を吹き込むという意味が込められています。

南高同窓会・あかね会も引き続き参加、卒業生の作品展や歌声広場を開催しました。

あかね会通信

東日本大震災により被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。

3月11日の東日本大震災で地震、津波、原発などで被災された皆様、心からお見舞い申し上げます。東北、北関東には約140名の会員が居住しており、その安否が心配されます。一刻も早い復興を願うとともに、被災地救援のために、会員一同、支援と協力に努めていきます。

3月26日に母校で開催された第5回あかね会常任委員会の会場においても、東日本大震災の被災者救援のための義援金が募られました。会員有志の皆様から80，500円がその場で集まり、八王子市東北地方太平洋沖地震支援本部を通じて寄付されました。

恐ろしき津波

雲一つ纏はず聳(そび)ゆる白富士を 眺めて帰るさ地震(なゐ)に遭ひぬ
刻々と被害状況を写し出す 映像に見る激震地の惨
家も人もなべて飲み込み跡形なし げに恐ろしき津波といふは
幾街を飲み込みしあとの泥土と 瓦礫の山に息を飲みたり
この惨事未曾有なりけり 復興は叶へらるるや祈りあるのみ
波に折れ泥土(でいど)に残るさくら樹の ふくらむ蕾を希望と映す
満月の今宵静かに昇りきぬ 激震地にも照りわたりゐむ

一日も早い復興をお祈りいたします。 **大塚 光代**（昭和30年卒）

あかね会活動の活性化に向けて

同窓会(現あかね会)は、明治44年11月26日に第 1 回目が開催されてから、現在で99年が経ちました。その間、第四高女から南多摩高校へと、同窓会運営は多くの女性役員の献身的な努力により続けられてきました。なお、あかね会の名称は、昭和33年南多摩高校50周年時に、当時の池田文雄校長により名付けられました。

平成20年の「創立100周年記念事業」を実施するにあたり、多くの男性が活動に参加され、その後も50・60歳代の会員があかね会活動、100周年基金の活動を支えています。この動きの陰には、長年、会の活動を支えて来られた先輩役員のご尽力を忘れてはなりません。

あかね会では、約1年をかけて過去の活動資料や成果を整理して、同窓会活動の今後のあり方を検討し、昨年11月、常任委員会に提言をしましたので、これを紹介します。

① 総会の今後のあり方

- 常任委員を各年次から増員(当面100周年委員経験者等)して、出席者を増やす
- 議事中心の「総会」から、各世代が懇親できる同窓会中心の「総会」として開催場所を学校以外で検討する
- 総会・懇親会の出席者から参加費を徴収するために、事前徴収などを検討する
- 新方式は平成24年から実施し、企画運営のために委員会設立を検討する
- 開催日は規約どおり5月第3日曜日の予定

② あかね会広報の継続発行とＨＰ

- 同窓生の期待の声、活動周知の重要性等から、広報の継続発行を行う
- 100周年基金の活用、広報協力金等により、印刷費、発送費などの発行費用を確保する
- 広報活動を活発化し、ホームページ(HP)運営等に携わる若手・新規委員の発掘に努める
- ホームページ(HP)は、同窓会・同期会・サークル会等の情報を通じて、会員相互を結びつける連絡網としての役割を強化する

③ 100周年基金のあかね会への統合

- 100周年基金事業を整理して資金援助業務に純化し、あかね会に統合する
- 総合学習支援プロジェクト「先輩に学ぶ」の企画運営、会員名簿・記念誌の販売管理等を行う組織を設ける
- 基金会計は特別会計に位置づける

この提言を受けて、新年度に向けた取り組みを始めました。同期会の幹事の方、同窓会活動に関心のある方、退職後に「地域デビュー」など考えている方は、ぜひお声を掛けてください。また、あかね会ホームページの『お便り募集・連絡フォーム』をご利用いただいても結構です。

あかね会 HP　http://www.akanekai.org/

連絡先：あかね会副会長　半澤 邦彦　042-667-2228

あかね会ニュース 2010～2011

今年も多摩産材の机･椅子一式を母校に寄贈　2011.2.12

2011年2月12日、昨年に引き続き、今年も多摩産材の机･椅子2セットを100周年記念基金から母校に寄贈しました。今年は置場所を考慮して、シンプルにデザイン設計された机･椅子が選ばれ、長方形の机2台に、角型、丸型の椅子･計8脚を揃えることができました。多摩産材製のものは木の温もりや癒やし効果

があり、東京都が学校に対して積極的に推進していることもあり、これまで校舎の広場や廊下などに設置されてきました。生徒の自習やコミュニケーションの場として利用頻度が高く、学校や生徒からは好評を得ています。今後、中等生も増え、さらに有効的に活用されることを期待しています。

ホームページ開設から１年、１万カウントを超えてリニューアル　2011.1.1

2009年12月に南多摩高校同窓会ホームページ「南たまコミュニティ」を開設して1年が過ぎ、訪問者が延べ1万人を超えました。これを機に2011年1月1日にホームページをリニューアルしました。

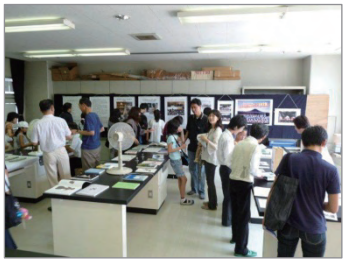
リニューアルの内容は、トップページのタイトルを「南たまコミュニティ」から「南多摩コミュニティ」に変更したほか、「学校･同窓会だより」と「会員通信」の項目が増えて検索しにくくなってしまったため、トップページは最新情報に絞り、過去の情報は、メニューと変更履歴から辿れるようにしました。

また、更新頻度の高い同窓会･学校からのお知らせと会員からの情報記事をカテゴリー別に分離し、メニューから直接選択できるようにしました。

さらに、会員からの連絡を受けやすくするため、情報の提供、名簿の変更のページに直接アクセスできるようにしたので、ホームページを通じて会員の皆さんに知らせたい情報や、住所変更など同窓会への連絡にご利用ください。 皆さんからの情報をお待ちしています。

2010 年「文化祭」は、卒業生の作品展と「歌声ひろば」を開催　2010.9.11-12

2010年の文化祭(第102回『南魂祭』)は、9月11～12日に開催されました。5年連続で参加している同窓会は、初めての試みとして、卒業生の作品展を開催。書道･絵画･陶芸･アクセサリー･著作出版物など約40点を一同に展示しました(写真左)。また、アトラクションとして「歌声ひろば」を開催し、南高卒業生で音楽家の丸山久さん(昭和44年卒)を招き、童謡、唱歌、フォークソング、丸山さん作曲のオリジナル曲「白馬旅情」など約15曲を皆で合唱しました(写真右)。あかね会活動のパネル展示や南高クイズラリーも実施し、中等1年生がクイズの景品を求めて大勢詰めかけました。卒業生も多数訪れ、学校関係者や生徒には概ね好評でした。



100 周年基金で「クスノキの記念碑」を建立し、母校に寄贈　2010.5.16

2010年5月16日、多数の会員が参加して「クスノキの記念碑」除幕式が行われました。祝い太鼓の演奏後、あかね会関係者や小林校長によって除幕式が執行されました。

創立から100余年の歴史をじっと見守ってきたこのクスノキは、昭和20(1945)年8月2日未明の八王子空襲で黒焦げになりましたが、翌年春に新芽が吹いて再生し、当時の生徒や教職員に大きな勇気を与えたことで知られています。いまは大樹となったクスノキの不屈の精神を、母校のシンボルとして後々まで伝えるために、記念募金でステンレス製記念碑を建立し、南多摩中等教育学校の開校祝として母校に寄贈いたしました(写真)。

引き続いてあかね会総会が視聴覚室で開催され、講師に松田有子さん(昭和39年卒)を迎え、楽しい話しと合唱指導で校歌を斉唱しました。

会員通信

私の原点

八王子文化連盟理事長、舞踊研究家　伊藤 淳子(昭和 27 年卒)

6歳の6月6日(数え年)から始めた舞踊も戦争で中断し、昭和21年、都立第四高等女学校に入学、今の中高一貫校と同じ6年間を同じ学校で学びました。併設中学2年生の初めダンス部ができ、いち早く入部した私でした。先生は背が高く美人の林(渡辺)茂子先生で、現代舞踊の権威・邦正美先生のお弟子さんでした。創作が主体のレッスンでしたが、私は夢中で講堂のムシと云われながらピアノの伴奏でのレッスン、ポピュラーからクラシックなど、ありとあらゆる曲で作品を創り続けました。(ダンス部から邦先生の所に行った人も大勢いて、旗野恵美さんもその一人です。)

高校生になったとき、林先生から高橋(永田)先生に代わり、今まで習ったことのないような美しい動きが私の心を揺さぶり、魅了された私は、すぐに高橋先生の師・江口隆哉師の門を叩いたのです。

そこからまっしぐら、昭和29年には八王子で研究所を開設、試行錯誤しながらもここまで続けてこられました。あと2年で60周年(舞踊生活75年)を迎えることになりますが、その原点は、都立第四高女で好きで堪らなく入ったダンス部でモダンダンスに出会ったこと、そのモダンダンスの魅力に拍車をかけた江口先生の指導や作品です。

でもやはり学生時代に出会ったモダンダンスとの遭遇が、一番大きく私の原点になったのではと思います。舞踊の世界に入った私は、いろいろな分野でも大勢の素晴らしい人たちと巡り会い、人と人の出会いがここまで私を育ててくれたのだと感謝しております。 人と人との出会いに万歳！

＊伊藤淳子さんは昨年,文化庁より地域文化功労者賞を受賞しました。

あの日あの頃

大島　富子 (昭和 25 年卒)

私が母校に入学したのは、本土決戦も叫ばれるようになった昭和19年の春、戦地からは毎日のように悲報が伝えられるときでした。 しかし、校門前を流れる小川、そして校庭の満開のサクラが、やさしく私たちを迎えてくれました。

戦前の第四高女校門

戦況は日に日に悪化し、校舎で授業が受けられたのは私たち1年生のみで、上級生は兵器工場に動員されて行きました。

やがて全国各地も敵機の襲撃にさらされるようになり、私たちの授業も1年生で終わり、2年生になると工場となってしまった校舎で、飛行機の部品の生産に励むようになりました。

そして、昭和20年8月2日未明、八王子はB29による焼夷弾攻撃を受け、街は廃墟と化し、校舎も炎上してしまいました。翌2日から、炎天下、先生と生徒で焼けただれた校庭の整理にあたりました。その間、敵機による地上攻撃などで命がけの日もありました。

まもなく終戦、授業は校庭の青空教室や他校の教室を借りて、再開されました。やがてバラックの校舎が出来上がり、授業が始まりました。

あの時代は食べ物も着る物も貧しかったですけれど、今では懐かしい思い出となりました。

体育の社交ダンス

五十嵐　満里子 (昭和 34 年卒)

「電車にあと5分で乗らなければ遅刻」。 駅まで自分の一番美しいポーズを作って走ること…。こんな想定をして、高校3年の体育の授業が始まりました。

ボリュームがあり、モダンな女性体育の教師永田先生。私たち生徒が卒業してから役立つことを体育の授業に取り入れてくださいました。高3の3学期の女子体育は「ソーシャルダンス」のワルツでした。 2人ペアで男性も女性も踊れるように交代で練習しました。試験もワルツでした。私はたまたまダンス部のいまは亡き目黒さんとのペアだったため、軽快にステップを踏むことができました。

卒業後に社会人となり、当時はダンスが盛んで、クリスマス・パーティなどが会社で開かれました。純情な社会人の1年生は尻込みする姿も…。私たち南高卒業生は、「社交ダンス＝体育」の思いがあり、さわやかな感覚でダンスをすることができ、すんなりと社会に溶け込み、楽しい時を持つことができました。

そんな時、永田先生の卒業後を見据えた社会人になった時に“生きやすくするための体育の授業”だったと思います。そして先生が「先見の明ある発想」で、授業をしてくださったと、改めて感謝しています。

会員通信

高校時代と最近の私

入沢　修自（平成５年卒）

この会員通信をご覧になられている方々の中に、私、入沢修自という生徒をご存じの方はいらっしゃるでしょうか。当時私は学校の勉強や世の中の謎について、ろくに勉強もせず、独りで物思いにふけっていました。東京には何か嫌なものを感じていたので、浪人しないで四国徳島まで出させて頂きました。まったく変わらない心持ちで学生生活をしていましたところ、独りで考えすぎとなり、2年ほど休学したりしました。その後どうにか卒業し、もう少し勉強をして、現在は聖蹟桜ヶ丘駅近くで司法書士事務所をやっております。

地域のニーズに応える仕事をすればよいと、ただそれだけの思いから、ご高齢の方々の財産管理人の仕事を主にしています。成年後見制度の担い手としては、おそらく全国でも上位の取扱件数となっているところです。学生の頃よりも宿題（仕事）の期限に追われ、心が疲れたり外回りが多くなると、すぐに机の上は書類の丘となります。

司法書士会で高校生法律教室などに同行した際、南多摩で体育の先生だった方がたしか教頭先生をしておられ、お声かけしたところ、先生もご自身のことを知っている人に会えて、うれしそうでした。空衣事務所と検索していただいて、メールでも電話でもいただければ幸いです。事務所概要に顔写真は掲載していますが、事務所を始めた5年前の写真で、現在ではもう少しメタボが進行しています。

百年太鼓の思い出

小山 なつみ（平成 23 年卒）

私は高校3年間の太鼓の活動で、とても貴重な経験をすることができました。初めは、南多摩高校百周年記念式典で太鼓を演奏する「百年太鼓」として結成された有志の活動でした。有志なので、それぞれ部活動をやりながら、昼休みや夏休みに練習を重ね、全くの初心者だった私達が、秋には舞台でたたけるほどに成長しました。

式典での成功をきっかけに、その後学校説明会や、夢街道駅伝など、様々な場でたたかせて頂くようになりました。

3年になって部活動を引退しても、太鼓を引退することはありませんでした。8月に九段会館で行われるPTA全国大会の分科会に出場することになったのです(写真)。

式典のときのように夏休みも沢山練習しましたが、一年の頃とは違い、私達は先輩として教える立場にもなっていました。特に、昨年度から入学してきた中等生の指導は大変でしたが、とてもやりがいがあり、中等生も驚くほど上達していきました。

そして大会では、今川先生、他校に異動された岡部先生、卒業生の先輩、高校の後輩、中等の後輩と、世代を越えたメンバーで、迫力の演奏を披露することができました。あの時のように、大勢で一つのものを作り上げることができた喜びや感動は、今まで味わったことの無い、本当に素晴らしいものでした。

このような経験ができたこと、南多摩の太鼓のメンバー一員であったことを、誇りに思います。いつも熱心に指導して下さった今川先生、私たちの活動を支えて下さった先生方、あかね会の皆様、PTAの方々、そして一緒にたたいてきた仲間に感謝します。これからは卒業生として、太鼓の活動を支えていきたいです。

「続けてきた結果」

馬場　雄太郎（平成２３年卒）

「高校生活とは短いものだ。」先輩方や先生方は、よくこの言葉を口にしていました。高校生活が終わろうとしている今、本当に短かったと感じています。その中で何ができたのかと自分に問いかけると、ハッキリとした答えの代わりに、これまで歩んできた日々の軌跡が見えてきました。この日々の努力こそが、私が高校生活で手に入れたものでした。

これまでの高校生活の中で、部活で輝かしい功績を残した人や、勉強を続けて第一志望の大学に合格した人、そんな様々な人達がいる中で、私は生徒会執行部の仕事をしていました。それは学校行事の運営から、購買の人とのつながりを含めた地道な活動でした。時には挫折したり、苦しいこともありました。しかし、この活動を通して、私は自分を信頼し認めてくれる人達の大切さを学ぶことができました。だからこそ3年間続けられたのです。

これらの活動は、それぞれ思い思いの活動に熱中できる南多摩高校だからこそできたのだと思います。私達は、人と人との支え合いの中で生きている。そんな当たり前だけど大切な事を実感できた経験は、これからの人生においての糧になるものでした。

会員通信

南多摩高校時代の想い出

山口　慶介（昭和52年卒）

東北・関東大震災の被災者の皆様には、心からお見舞い申し上げます。寄稿の機会を戴き、当時の想い出を綴ります。

昭和49年、都立高校学校群71群を受験し、願書提出は日野2中分を全部預かり日野高校へ提出しました。試験会場は富士森高校、合格したのは南多摩高校でした。一定の学力の生徒に絞り込まれたため、大人しい校風でした。 生徒にはみんな「学校へ勉強に来ているという自覚」があり、私服で「服装に縛られない」良い時代でした。1年2組、大塚大先生クラス。先生は山岳写真で有名で、ニュージーランド観光省に招待され山岳スキーの撮影に行きましたが、温度差で風邪を引いておられました。今回のニュージーランド地震被災にも、改めて哀悼の意を表します。

1年生で文化祭実行委員会副委員長を。サッカー部横溝先輩等のご指導により、生徒会長へと。2年・3年は6組稲田健二先生クラス。3年生で再び文化祭実行委員会副委員長。文化祭では、当時、クラス単位の自主映画制作が流行りました。私事ですが、交通事故では大変ご迷惑をおかけしました。

カナダと日本と私 －異文化に生きる－

田中　和子（昭和40年卒）モントリオール在住

時の流れの中で、人の生き方も変わっていくようです。母国を離れ、カナダの東部、ケベック州のモントリオール市に在住し、異文化の中に生きて25年以上になります。

カナダは、日本の25倍もある無限の自然に囲まれた広大な国です。400年ほど前にフランスからの殖民で始まったこの国は、その後、イギリス領になったり、独立したりと支配が変わるたびに使われる言語も変わってきました。現在使われている公用語は英語とフランス語ですが、実際にはケベック州だけがフランス語が主要の言語となり、他の州は英語が公用語といえます。

モントリオール市はフランスの影響を強く残し、エレガントな古い町並みはヨーロッパそのものです。ここに50ヶ国以上の移民がモザイク状に入り組み、それぞれの国民性を保ちながら、上手に暮らしています。英語と仏語のバイリンガルでコスモポリタンな町ですが、これに加えて母国語を話す移民も多く、3～4ヶ国語がどこでも聞かれます。我が家のように、生まれ落ちたその瞬間から両親が違う言語で子供を育てる人も少なくありません。

家族は、主人と私と娘の3人ですが、実際には、再婚の主人の先妻との間の2人の義理の息子も、生活は半分一緒ですので、5人家族と言えると思います。私は、目つきも、毛色も違う第二の母として、義理の息子達と時を過ごしてきました。子供には国境などないのです。

さて、私の娘ですが、文化人類学の修士課程を終わり、秋から、博士課程に入ります。フランス語、英語、日本語を完璧に話し、読み書きができ、それが、娘の研究に多いに役立っているようです。研究は、日本の青少年犯罪です。日本の家族構成、社会構造、精神分析、政治構造を掘り下げ、青少年犯罪を探っていくものです。言語能力が研究に不可欠ですが、基本的には、フランスの教育で培われた、思考方法、分析方法なくしては、今の研究にはいたらなかったのではないかと思います。日本の社会が、ずばずばとフランス風のカルタジアンの思考方法で、分断されていきます。まさに、娘の生き方の中にフランス、カナダ、日本が収縮されているように思えます。娘は、日本とカナダあるいは、欧米を一定の角度から眺めて生涯研究していくことと思います。その根底には、限りない日本への愛と理解があると言っても過言ではないと思います。それをいかに欧米に伝え、欧米の社会に役立てていくか、それが使命ではないのでしょうか。

さて、主人ですが、パリ生まれの、パリ育ちのフランス人です。アフリカのタンザニアに5年居た後、モントリオールに移住してきました。本業は獣医ですが、剣道が三度の飯よりも好きという人で、七段で、マギル大学の剣道部の師範をしています。また、カナダ剣道連盟の副会長も勤めています。

主人の剣道への情熱の実現の手助けや、家事の傍ら、私は、いけばな(古流松藤会)のいけばなを教えて20年以上になります。生徒たちは、モントリオールのモザイク状のコスモポリタンの性格を反映し、ケベックの英語系の人、フランス語系の人、フランス人、ドイツ人、スペイン人、ポルトガル人、ベトナム人、中国人、日本人など、実に様々です。多言語の飛び交う文化サロン、これが私の生け花教室といえるかもしれません。お稽古だけでなく、いけばなインターナショナルのモントリオール支部会長の職もつとめました。外国人80人の組織をリードし、運営していくのは、日本人には少し大変でしたが、外国人に太刀打ちする良い勉強にもなりました。こうした状況は、いやがおうでも、私に日本を再確認する機会を与えてくれました。文化の深さを見直さざるを得なかったからです。剣道であれ、いけばなであれ、日本の伝統芸は、稽古という形で、自己の修養をする大事な生き方を、世界各国の人たちに教えていく、大きな許容力を持っています。長い間、異文化に生きた経験は色々のことを教えてくれました。自分自身の国の文化を追求し、異国の文化への理解する寛大な心を持ち、お互いの文化を尊敬しあってこそ、本当の国際性を築き、世界に平和が保てるのではないかと思っております。

南高BOOKS REVIEW

南高卒業生が著した本

監修：井上　務（昭和44年卒）

「フィラデルフィアへのシルクロード」

西川　知恵子（昭和 25 年卒）

著書の帯には「生糸のごとく　美しく、しなやかに、強く．試練はお恵み、耐えられない試練はないと、華麗にチャレンジを続ける78歳、車いすアスリートのエクサイティング・ライフ」とあります。
さて、西川さんの曽祖父のお名前は西川伊左衛門さん。明治26年、昭島に西川製糸を創業し、生糸を生産。その製品が大正15年にフィラデルフィアで開催された万博でグランプリを獲得。著作題名の淵源となりました。
西川伊左衛門さんの別荘は、江戸東京たてもの園に高橋是清邸と並んで移築されておりますのでご存知の方も多いと思います。その伊左衛門さんの初曾孫が著者西川知恵子さんです。
第四高女2年、当時14歳の西川さんが書かれた作文が61年間もの長きにわたり宮内庁に保管されて、立川の昭和記念公園内にある昭和天皇記念館のガラスケース内に展示されることとなり、自らの目で確かめに行かれたことなどが紹介されております。【けやき出版、2010年発行】

「　ま・た・ね　」

滝沢　道子（昭和 63 年卒）

あの日野原重明先生が激賞されている著作です。メメント・モリ。この言葉が全編を貫いていました。
さて、著作題名「ま・た・ね」の由来は・・・。ホスピスに26歳の患者さんが入院してきました。受け持つ看護師さんも26歳（著者）。入院時の問診で「座右の銘」を問われた患者さまは「ま・た・ね」と答えました。「友達と会って別れるとき、もう今度は会えないかもしれないと思うとつらくなるから、必ず最後に『ま・た・ね』と言うんです」と。　同い年の二人は看護師と患者の関係を越えて仲良しになり、語り・悩み・涙し「生きること」の意味を深く考えていきます。そして・・・。
実に重いテーマに真正面から立ち向かった同窓生の闘いの記録を、ひとりでも多くの皆さんに読んでいただきたいと願い、ここに紹介させていただきました。【講談社　2006年発行】

「ブータンに図書館をつくる」

石田　孝夫（昭和 44 年卒）

著書のサブタイトルは「青年海外協力隊員の730日」。
石田氏は安定した大学図書館職員の職を辞し、1990年4月より単身でブータンに向かいました。
目的は著書名にある通り「図書館をつくる」。本はあるものの分類・整理が不十分な状況を図書館のプロとしてどう改善していくかの試行がブータンの風習などを紹介しつつ綴られています。
また、GNPよりもGNH（グロス・ナショナル・ハピネス）、つまり「モノがたくさんあることだけがシアワセ？」との考え方を提唱するブータンで「本当の豊かさとは？」を我々日本人に問いかける氏の記述は強い説得力で私たちに何かを訴えてきます。【明石書店　1993年発行】

「私が来た道」

富岡　陽子（昭和 25 年卒）

「自分史であることは書名から容易に判断できますが、一読すると御自身のことだけでなく、社会、そして家族とのつながりを意識されながら書かれたことが明確に伝わってきました。
「はじめに」で御高名な川村二郎氏（元「週刊朝日」編集長）が、「白眉は『学校が焼けた日』である。この文章は、ひとりでも多くの人に読んでもらいたい。そして、心に刻みつけてもらいたいと思う」とあります。同窓の皆様に是非とも読んで頂きたいページです。富岡さん、3冊目の作品です。
【岩波ブックセンター　2010年発行】

＊ここに紹介された 4 冊の本は、ホームページに紹介され、2010年「文化祭」の卒業生作品展に出品展示されました。

100周年基金運営委員会

100周年記念基金の支援活動について

平成20年(2008)に母校の創立100周年事業が挙行され、早や2年半が過ぎました。卒業生の皆様からは記念募金として4,300万円もの寄付を戴き、記念誌・会員名簿・広報紙の発行、母校への和太鼓・洋楽器の寄贈、400人余の参加による祝賀会開催など、100周年記念事業を盛大に挙行いたしました。お蔭様で当初の計画どおり、原資の一部で「100周年基金」を設立することができました。今号はその現況を報告いたします。

平成21年度当初に、100周年記念事業から約2,800万円を引き継ぎ基金を設立しました。基金規約では、「100周年記念募金」を原資とし、「母校発展に寄与し、後輩が豊かな国際性と社会性を身につけ、有為な人材に育つよう支援すること」を目的としました。

21年度には、学校が確保できなかったスクールカウンセラーの派遣、校内学習・教え合う学習を支援する多摩産材の机・椅子の寄贈(2組)、100周年記念事業から継続する「先輩に学ぶ」授業への先輩講師5人の派遣、和太鼓ばちの購入、先輩学生の生徒指導など、母校へ約120万円の支援を行いました。

平成22年度は、8月の第60回全国高校PTA連合会東京大会に和太鼓演奏に参加し、見事に母校の名声を高めた太鼓クラブへの活動支援、多摩産材の机・椅子の寄贈、先輩学生の生徒指導への支援のほか、あかね会広報紙第1号(2010特別号)の発送、「クスノキ記念碑」の建立、文化祭参加などの支援を行いました。なお、総合学習支援プロジェクト「先輩に学ぶ」へ先輩講師の派遣を3月に計画しましたが、東日本大震災の直後だったため、今年は残念ながら授業が中止となっています。

100周年基金は、主に母校の教育活動、備品整備、周年行事ほか、通年行事への支援などを設立より概ね10年間(期間延長も可)、安定的に運用いたします。本年度からは、あかね会の特別会計に位置づけて運用していきます。

従来、あかね会では、母校生徒の進路指導支援や卒業記念品を寄贈してきました。これら資金援助事業を基金に取りまとめて、今後、一元的に母校などへの支援を実施する予定としています。

創立100周年の際に皆様から頂戴しました貴重な浄財を、母校などの支援に活かしていく考えであります。

益々の愛情と善意に基づいたご支援ご協力を、心からお願い申し上げます。

(100周年基金運営委員長　常盤　正臣)

有機バナナのパイオニア　ナチュラルヒーロー®

株式会社 ヒロインターナショナル
代表取締役 神藤宏昭(昭和35年卒)
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-16-5(マニュライフプレイス渋谷3F)
電話:03-3406-1091 FAX:03-3406-1203 http://www.naturalhero.co.jp

南多摩高校出身の演歌歌手「伊達めぐみ」

(有)オフィスめぐみ
代表 伊達 めぐみ(平成3年卒)
☆イベント企画承ります
〒192-0041 八王子市中野上町5-14-1
TEL:042-622-9932/FAX:042-627-6678
http://date-megumi.net/
新曲「よっしゃよっしゃ！ソーランおんな節」「☆(ほし)の舞」発売!!

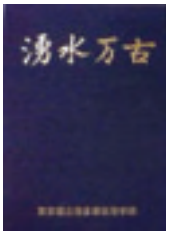
剛紙ing
お任せ下さい！印刷のすべて。
取締役副社長 野口 富巳子(昭和35年卒)
有限会社 三共社
〒192-0041 東京都八王子市中野上町2-29-1
TEL.(042)625-8325 FAX.(042)625-8369
http://www.san-p.co.jp

「カラオケ」と「うたごえ」を楽しく！
sing station うたの駅
駅長 半澤 邦彦(昭和37年卒)
〒193-0844 八王子市高尾町1595-3-101(高尾駅北口3分)
TEL:042-664-6555
営業時間:昼12:00～午後11:00
http://www.utanoeki.co.jp

100 周年記念誌『湧水万古』、『会員名簿』の特別販売!

南多摩高校創立 100 周年事業として発行された永久保存版・記念誌『湧水万古』と『会員名簿』。どちらも残り部数は僅かです。ご希望の方はお早めにお申し込みください。

感動ギッシリ!! 記念誌「湧水万古」



◆B5判◆1 色刷(一部カラー)・ 456 頁◆ハードケース付
◆永久保存版◆2008 年 11 月刊◆価格:3, 500円(送料含)
【主な内容】カラー:現在の母校■南高 100 年の貴重な写真を多数掲載■誌上タイムカプセルー今を未来に伝達 他

●記念誌のお求め方法

メールまたは電話で、住所・氏名・電話・卒業年度・組を連絡の上お申し込みください。折り返し記念誌を発送しますので、同封の郵便振替用紙で代金 3,500 円をお振り込みください。
●メール申込先: kinenshi@akanekai.org 田辺
●電話申込先: 0428-33-4820 加藤

「会員名簿」【2008 年版】

◆B5判◆1 色刷 700 頁
◆28,300 人の卒業生・教師を収録
◆2008 年 10 月刊
◆価格:4, 300円(送料含)

●会員名簿のお求め方法

電話で住所・氏名・電話・卒業年度・組を連絡の上、お申し込みください。折り返し会員名簿を発送しますので、同封の郵便振替用紙で代金 4,300 円をお振り込みください。
●電話申込先:042-625-8325 野口

講師募集 — 先輩に学ぶ

総合学習支援プロジェクト「先輩に学ぶ」は、将来、生徒が人生の進路を決める際に、社会の第一線で働く卒業生から話を聞き、進路選択に役立ててもらうことを目的に、母校の２年生を対象に２～３月に実施しています。自薦・他薦を問いません。幅広い年代、色々な職業分野で経験されたお話を、母校生徒のためにご支援・ご協力をお願いいたします。

メール:jigyo@akanekai.org 井上
電話 : 090-1839-0363 井上

展示作品募集 — 文化祭

2011 年 9 月 10 日(土)～11 日(日)に開催予定の母校文化祭「南魂祭」。昨年初めて企画して好評でした卒業生の作品展を、今年もあかね会展示教室で実施する予定です。あなたが著した出版物、絵画、書道、陶芸、ＣＤ…その他の作品を、母校生徒や関係者に対して出品展示してみませんか。出展希望者は下記まで連絡をください。

メール:jigyo@akanekai.org 溝口
Fax : 042-646-2255 田中

広報部員募集 — HP

ホームページ(ＨＰ)制作・運営・取材、広報紙制作など母校と同窓生をつなぐ役割を担う広報委員を募集します。同窓会サイト「南多摩コミュニティ」を開設して１年余。会員相互の情報交換、母校の情報発信、会員情報の管理、記事の取材に多くの方の協力が必要です。特に編集、記事取材、ＨＰに関心があり、ボランティア協力をいただける方はご連絡ください。

メール:koho@akanekai.org 菱山

基礎を大切に独走と調和を考えた想像空間をめざして

総合建設業
黒須建設株式会社

〒192-0063 東京都八王子市元横山町1-29-12
TEL:042-642-5331(代) FAX:042-642-5314
URL http://www.kurosukensetsu.com

心のふるさと
祈りのお山
高尾山

薬王院 山主 大山 隆玄(昭和 28 年卒)
http://www.takaosan.or.jp

山も良し 水も又良し 秋川の酒
清酒 喜正(キショウ)

醸造元 野崎酒造株式会社 TEL:042-596-0123
代表取締役 社長 野崎 三永 FAX:042-596-5229
阿部(野崎)芳子(昭和 27 年卒) 野崎捷治(昭和 31 年卒)
吉田(野崎)正世(昭和 36 年卒)

栄寿産業株式会社
102 DoughNuts
豆腐と豆乳で作ったヘルシーなドーナッツの店
村内 絹江(昭和37年卒)
〒192-0045 八王子市大和田町5-1-21
TEL:042(646)0168 FAX:042(645)2327

モダンダンス・モダンバレエ

伊藤淳子・武藤結花 舞踊研究所 入所随時

主宰 伊 藤 淳 子（昭和 27 年卒）

JR 高尾駅北口セブンイレブン 2F・JR 橋本に 2 ヶ所稽古場有り

［問い合せ］八王子市打越町 1069-1-102 **TEL(042)635-2033**

http:/www.webspica.com/itoubuyou/

東京都知事認可 第 76262 号

地耐力試験・裁可試験・土質試験・深井戸・ポンプ工事・倉庫・駐車場・ボーリング

石田産業有限会社

代表取締役社長 石田 高章

常務取締役 石田 菊江（昭和 27 年卒）

〒190-0013 東京都立川市富士見町 2-32-27 石田産業ビル

TEL：**042-522-2406** FAX;：042-525-0483

ー塗料のことならお任せくださいー

石 田 塗 料

代表：石田 明／中西 フジ江(昭和 29 年卒)

〒192-0066 八王子市本町 20-18

電話：**042(622)1401** FAX:042(622)2447

http://ishidatoryo.com

京王八王子駅前〔日曜・祝日・木曜 休診〕

医療法人社団 大島会

大島 耳鼻咽喉科 気管食道科 クリニック

院長 大島 清史／大島 富子(昭和 25 年卒)

〒192-0046 八王子市明神町 4-5-9

TEL：042-642-8012

http：//www.oshima-ent.com/

卒業生が監修した本 書店にて発売中！

ドラマ“風のガーデン”に咲く宿根草の育て方

大森農場カントリーガーデン

昭和 47 年卒 大森 康雄・大森 敬子(旧清水)

宿根草通信販売：カタログあります

〒089-2446 北海道広尾郡広尾町紋別 14-98

TEL：01558-5-2421 FAX：01558-5-2647

http://homepage2.nifty.com/omorigarden/

医療法人社団 三真会

勝 田 医 院

泌尿器科・内科・外科

院長 勝田 真行／勝田 三枝子（昭和 33 年卒）

〒193-0803 八王子市楢原町 556—1

電話：042(625)2727 FAX：042(625)2700

〔休診日：日・祝、木・土の午後〕

省力化機器 設計・製作

有限会社 キタノ

代表取締役 小山 隆司(昭和 36 年卒)

〒192-0914 八王子市片倉町 584-25

電話：042-642-1808 FAX：042-642-1808

高級オリジナルニット

色彩の魔術師

齋藤都世子作品ルーム

◇ 八王子・浅野サロン ◇

きもの浅野

浅野 常子(昭和 34 年卒)

〒192-0904 八王子市子安町 3-32-10-106

☎・FAX:042(646)9833／090-1422-1192

創業 162 年 磨きぬかれた老舗の味

和菓子司 白 子 屋

有限会社 白子屋本店

大久保 キヨ子（昭和 29 年卒）

〒192-0063 東京都八王子市元横山町 3-4-2

電話：042(642)3544 FAX：042(645)0208

城山右田医院

院長 村田 恭子／右田 貞子(昭和 26 年卒)

〒252-0105 神奈川県相模原市緑区久保沢 1-2-7

TEL：042-782-2120

SHINDO ORTHODONTIC CLINIC

新藤矯正歯科クリニック

〒192-0081 東京都八王子市横山町 23－2

TEL：042-646-3686

http：//www.shindo-ortho.com

明るい未来を拓く、元気な子供達を育てます。

社会福祉法人 相友会

浅川 長房 西 諏訪

保 育 園

諏 訪 の ぞ み 乳 児 園

理事長 村松 一恵（昭和 28 年卒）

法人本部〒193-0812 八王子市諏訪町 5 TEL：042-651-4555

法あるところに救済あり！

司法書士・行政書士　空衣（そらい）事務所

みなさまとお会いしたいと思っています

代表　入沢　修自(平成 5 年卒)

〒206-0011 東京都多摩市関戸 4-23-1 (関戸ビル 301)

電話:**042-389-5570**　Fax:043-389-0755

http://www.sorai-law.com

ダンスウェア・シューズ

（ソシアルダンス・ホークダンス・バレーシューズ）

CHAT チャット八王子

店 長　粕谷　和子(昭和 35 年卒)

〒192-0085 八王子市中町 12-8

TEL・FAX：042-626-1255

〔定休日：水・日曜　営業時間：午前 12:00～午後 6:00〕

医療法人社団 真歯会

常盤矯正歯科医院

理事長:常盤 肇　理事:常盤 正臣(昭和 31 年卒)

〒160-0022 東京都新宿区新宿 4-3-22(安藤ビル 5F)

電話:03-5363-1182　FAX:03-5363-1173

フリーダイアル:0120-755-182

http://www.tokiwaoc.com

NAKANO 学校法人 八王子明和学園 なかの幼稚園

なかの幼稚園 そこは
子どもの世界です。

〒192-0041 八王子市中野上町 5-32-13

TEL:042-622-3001・FAX:042-624-3103

http://www.nakano-kd.ed.jp/

理事長 中村　健(昭和 46 年卒)

ISO 取得事務所

税理士法人 **西東京会計**

代表社員・税理士　加藤　晃(昭和 38 年卒)

事務所:〒192-0032 八王子市石川町 733-4

TEL:042-644-1771　FAX:042-645-7372

http://www.tkcnf.com/ntk/

一級建築士事務所

株式会社 **浜 中 企 画**

〒193-0801 八王子市川口町 3411

電話:042(654)4325　FAX:042(654)6128

mail:hamanaka@tokyo.email.ne.jp

豊月 日野菓庵へようこそ

最中・生菓子・焼き菓子・蒸し菓子・その他
いろいろなお菓子を作っています

豊月堂　社長　奥泉　正一（昭和 44 年卒）

〒191-0016 日野市神明2-8-4　**TEL:042-586-6362**

http://store.yahoo.co.jp/hougetu-hinokaan

有限会社 **保寿産業**

代表取締役 小川 禎子(旧姓岸 昭和 31 年卒)

〒190-0023 立川市柴崎町1-9-32

TEL:042-526-2646　FAX:042-529-7500

病院・老人ホーム・事業所等の給食品専門問屋

増田屋 株式会社 増田禎司商店

代表取締役　増田太郎／増田敦子(昭和 34 年卒)

〒193-0801 八王子市川口町 3726-2

TEL:042-654-2222　FAX:042-654-5049

南多摩高校東隣

まつもと歯科医院

院長　松本 秀一／松本 陽子(昭和 28 年)

〒192-0046 八王子市明神町 4-22-9

電話:042-642-7464　Fax：042-644-5413

【日曜・祝日　休診】

先輩・後輩・友人の皆さん お元気ですか

弁護士 **森　保彦**(昭和 38 年卒)

森田・森法律事務所

〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-8
(コーポ・クローバー駒井 504 号)

TEL:03-3355-4021　FAX:03-3355-4022

宗家　山 野 愛 子

山野流着装教室

労働大臣賞受賞・37 周年(70 名講師輩出)

奥伝師範・講師：石田(菅)菊江(昭和 27 年卒)

立川市富士見町 2-32-27　パッチワーク教室あります

TEL:**042-525-2824**　FAX:042-525-0483

奥伝コース　自分の経験を生かし、教室の師校を志望する人のために

「あかね会総会」、同級生とご一緒に出掛けましょう

卒業生、旧教職員の皆様、毎年、5月第3日曜日は「あかね会総会」の日です。お仲間と一緒に出かけてみませんか。あなたは母校・南多摩高校に、最近、いつ頃訪れてみたでしょうか。大分ご無沙汰していませんでしょうか。

昨年の4月から、南多摩高校に南多摩中等教育学校が併設され、中高一貫教育がスタートした様子は、今号の学校記事のとおりです。中学1年生、2年生の各4クラスが加わり、中学には給食も提供されています。

最近、あなたのクラス会、同期会は、開催されていますか。昔の仲良しのお友達と旧交を温める機会はありましたか。

あかね会総会は、そうした再会の出逢いをつくれる場所でもあります。同級生の仲良しの方と連れ立って、ぜひ、八王子の母校を訪れてみてください。5月15日(日)に多くの皆さまの出会いと再会がありますように、あかね会もお手伝いしたいと思います。会員であればどなたでも参加でき、会費は無料です。

昨年のあかね会総会

2011年あかね会総会

●日時：**平成23年5月15日(日)**
午前10時～午後2時

●場所：**南多摩高校 視聴覚教室**
通用門(南西)から西館玄関にまわりご入館ください

【**定時総会**】平成22年度事業報告・決算報告
平成23年度事業計画(案)・予算(案)
役員の改選 ほか

●**講演会:「優雅に試練を乗り越えた私の80年!」**
講師:西川知恵子さん(昭和25年卒)
西川製糸創始者の曾孫
聖心女子大学大学院終了(シェイクスピア研究)
昭島市保険福祉センター運営協議会会長
車イススポーツダンス インストラクター
最新著書「フィラデルフィアへのシルクロード」

●**懇親会**： 新会員の歓迎・紹介
出席者の近況報告など
昼食、懇親・懇談

●**会費**： 無 料

「広報協力金」に、ご協力をお願いします

あかね会広報紙第1号に続いて、今年、会員皆さまのお手もとに第2号をお届けいたします。昨年、第1号をお送りしましたところ、多くの皆さまから御礼と発行継続の熱い思いやご要望をいただきました。

また、「広報協力金」のお願いをしましたところ、588人の方から総額236万円のご協力を頂戴いたしました。当初の見込み額を大幅に上回り、1人平均で4千円の協力金を戴きました。お蔭様で広報紙制作・発送費用の9割を賄うことができ、住所の判明している会員約2万名近くに広報紙第2号を発送することができました。これもひとえに母校に熱い思いを寄せる皆さまの善意のたまものと、心から感謝申し上げる次第です。

さて、誠に恐縮ながら、今年も会員の皆さまから、「広報協力金」1口千円(なるべく2口以上)のご協力を仰ぐこととなりました。広報紙発行とホームページの活用で、会員皆さまの相互通信や情報交換の充実をはかるとともに、この広報紙をあかね会ホームページからでも閲覧できるようにいたします。

ご入金は同封の振込用紙で、最寄りの郵便局からお願いします。後日、ホームページ上にご芳名を掲載させて戴きます。振込用紙の通信欄には、広報紙のご感想やご意見などお寄せいただくと幸いです。

また、住所移転や会員情報変更などの際には、あかね会までご連絡をお願いいたします。

《お知らせ》「先輩に学ぶ」(3月18日予定)は、大地震の影響で中止になりました。アメリカからの福田さん、直前までフランスにいた日高さん、フィラデルフィアのお話し等をご準備の西川さん、泉田さんからは教科書のヒミツが、実業界で大活躍中のムラウチドットコムの村内社長は充実のパワーポイントをご用意頂きました。なるべく早期に実施を！と考えております。(井上)

《編集後記》 この度の東日本巨大地震で被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。また、被災地や原発の処理作業で懸命に従事されている方々に、深く感謝し敬意を表します。 今回、会員皆様のご支援により、再び広報紙を全会員にお届けすることができたことに厚く御礼申し上げます。本号では、会員からご要望が最も多かった「開校後の南多摩中等教育学校」を特集しました。今後、ホームページ『南多摩コミュニティ』も利用して、広報紙第2号のPDF閲覧、母校や会員の情報、同窓会・同期会・クラス会情報などをお届けできるように努めてまいります。 会員皆様からのご連絡をお待ちしています。(新垣) mail:koho@akanekai.org